

アフリカの食と農を変えるのはNODAI生だ！

「食と農のグローバル人材育成プログラム」 — Global Agri-Nutrition Leaders Program —

農 TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE

大学の世界展開力事業とは？

大学の世界展開力強化事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において2011（平成23）年度から開始された事業です。

東京農業大学では、2015～2020年に「中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業」を実施し、中南米地域で活躍できる開拓（開発）型グローバル人材の育成に取り組みました。アフリカ地域を対象とする本事業は本学にとって2件目の世界展開力強化事業となります。

東京農業大学の世界展開力強化事業

事業の名称（選定年度2020年度（タイプA））

アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム

交流推進事業の概要

本学がアフリカにおいて取り組む栄養改善の研究プロジェクトをベースに、アフリカの農学系大学との連携を強化し、双方向の学生交流を活性化させる。これにより、本学を含む日本人学生にアフリカをフィールドとした実践的な教育プログラムの機会を与えるとともに、アフリカの学生が日本で最新の農学・栄養学を学び、国や地域を超え学生間で議論する機会を創出し、アフリカの食と栄養改善に貢献する次世代リーダーを育成する。

交流プログラムの概要

アフリカ協定校への本学学生の派遣：
長期交換留学（半年～1年間）、短期派遣プログラム（2～3週間）
アフリカ協定校から本学への受入：
長期交換留学（半年～1年間）、短期受入プログラム（約2週間）

本事業で養成する人材像

日本人学生は、卒業後、青年海外協力隊への参画や大学院への進学など現場経験に根差した専門性の強化が期待され、将来的に国際協力機構（JICA）や国際NGO事業の専門家、国際熱帯農業研究所（IITA）、生物多様性センター（Biodiversity international）、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）などの国際研究機関で活躍できる国際研究者の育成を目指す。アフリカ人学生には、日本で先進的な農学や栄養学を学ぶ機会を提供することで、アフリカ地域の食と栄養問題解決に向けた取り組みの中核となる人材を育成する。

本事業の特徴

アフリカにおける栄養問題の解決には、栄養学という自然科学、健康科学のみならず、農学、社会科学といった学問分野の多様性が求められる課題である。本事業では、本学が2001年より毎年主催している「食と農と環境を考える世界学生サミット（ISS）」でこれらの活動の発表をするほか、本学および協定校の学生が、「栄養」に関する課題について、世界の農学系大学生と議論し問題解決能力を高める場とする計画である。

交流予定人数

		2020	2021	2022	2023	2024
派遣	実際に渡航する学生	-	17	17	17	17
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	34	34	34	34
受入	実際に渡航する学生	-	11	11	11	11
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	22	22	22	22

食と農のグローバル人材育成プログラム

東京農業大学がアフリカで取り組む栄養改善の研究プロジェクトをベースに、アフリカの農学系大学との連携を強化し、農大生にはアフリカをフィールドとした実践的な学びの場を、アフリカの学生には日本での最新の農学・栄養学を学び、国や地域を超え学生間で議論する機会を創出します。これにより、アフリカの食と栄養改善に貢献する次世代グローバル人材の育成を目指します。

次世代グローバル人材とは

- 課題を設定・解決する能力**
異なる視点や価値観を理解、認識し、認めることができ、自らが置かれている環境とは異なる視点からも課題を検討できる力を持つ。
- 英語力・コミュニケーション能力**
多様な背景を持つ人々と考えを伝え合うコミュニケーション能力を持つ。
- リーダーシップ**
ローカルかつグローバルな視座で持続可能な発展のための行動を起こすことができる態度と能力を持つ。

次世代グローバル人材の将来像

- 食と農のグローバルビジネスの架け橋になる起業家・産業人材
- 国際協力機構(JICA)や国際NGOの事業に参加する開発専門家
- 国際的な研究機関(国際熱帯農業研究所(IITA)、Bioversity、国際農林水産業研究センター(JIRCAS)や国内外の大学で研究する研究者

「食と農のグローバル人材育成プログラム」のながれ



PROGRAM プログラムの内容

01. African Cafe

現在アフリカで活躍されている日本人や、農大で学んでいるアフリカからの留学生を招いてのディスカッション、ソコネ農業大学やジョモケニヤッタ農工大学の学生とのオンライン交流会などを開催するイベントです。どなたでも無料で参加できるので、まずはアフリカのことを知りたい、という方におすすめです！



02. 課題解決力醸成ワークショップ

国際機関やアフリカに関わる民間企業で活躍する方々を講師に、アフリカの課題や、思考のフレームワークを使っての課題の発見、課題の定義、仮説の検証など構築方法を学ぶプログラムです。



03. 海外派遣

アフリカの食と栄養を切り口とした、短期または長期の派遣プログラムです。事前プログラムとして「課題解決力醸成ワークショップ」を受講し、現地では協定校での専門科目講義や学生交流、現地家庭にホームステイをしながらの食事・栄養摂取調査、農業調査、青年海外協力隊の活動視察などを通じ、課題発見から解決策の検討までを実践します。



【短期派遣プログラム】

アフリカの食と栄養を切り口とした2～3週間のプログラムです。

参加者は、事前プログラムとして「課題解決力醸成ワークショップ」を受講し、現地では以下の内容を含むプログラムを通じ、現場での課題発見から解決策の検討までを実践します。

- 現地協定校での専門科目講義や学生交流
- 現地企業（農業、食品、ヘルスケアなど）の視察
- 現地家庭にホームステイをしながらの食事・栄養摂取調査、農業調査
- 青年海外協力隊などの活動視察

例年のスケジュールは、募集4月、選考5月、派遣前プログラム6～7月、派遣8～9月頃ですが、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により夏期派遣を見合わせます。次回の短期派遣プログラム実施時期の決定後、ホームページ等で詳しくご案内致します。

【長期交換留学】

アフリカの食と農、栄養に係る知識・経験を深めたいと考える人向けの6～12ヶ月のプログラムです。

協定校の正規授業の中から関心のある科目を選び履修することができます。留学期間中の休暇を使っての国際研究機関や現地の農業・ヘルスケア企業でのインターンシップや青年海外協力隊員の活動視察など、個々の関心・希望に応じたプログラム作りをグローバル連携センターがサポートします。

- 協定校正規授業の履修
- 現地企業（農業、食品、ヘルスケアなど）の視察
- 現地インターンシップ
- 青年海外協力隊などの活動視察

アフリカへの長期交換留学は8～9月出発となります。前年度の12～2月に募集選考があり、3月に可否通知、4月から派遣前プログラムが開始されます。募集案内についての詳細はホームページをご確認ください。

04. 協働学修プログラム

Collaborative Learning Program

「食と農と環境を考える世界学生サミット(ISS)」と「Comprehensive International Education Program (CIEP)」への参加を通じ、それまでに培った知識や経験を活かし、世界に発信する力、異なる背景を持つ学生と協働する力を身に付けます。

Collaborative Learning Programは、「食と農と環境を考える世界学生サミット(ISS)」と「Comprehensive International Education Program (CIEP)」により構成されています。これらは、農大生と海外協定校の学生を対象に開講される国際教育プログラムです。

Group H - Nutrition -

Live discussion - Sep.15 (Wed) from 17:40 to 19:10 in Japan Time



● Comprehensive International Education Program (CIEP)

「CIEP」は、海外協定校の学生とともに受講する英語によるプログラムで、座学、農業実習、ワークショップ、グループプレゼンテーションにより構成された1週間のプログラムを通じ、アジア・日本の食・農・環境に関する現状と課題について実践的に理解を深めます。

● 食と農と環境を考える世界学生サミット (ISS)

「世界学生サミット」では、各大学から選ばれた代表学生が、大学生ならではの視点で、大学生だからこそできる食・農・環境に関する取り組みについて発表を行い、テーマ別に分かれたグループ討論と、全体での総合討論を通じ、これら課題について大学生という立場からの提言をまとめていきます。代表学生以外の農大生も自由に参加しディスカッションに加わることができます。

本プログラムの参加者には、短期派遣プログラムや長期交換留学を通じて得た経験や学びを、世界学生サミットで広く発信することが期待されます。

アフリカで培った知識と経験を武器に
食と農のグローバルリーダーとして世界に羽ばたこう！

「食と農のグローバル人材育成プログラム」で行われる 協働実践型教育とは？

知識の暗記のような受動的な学習ではなく、自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法のことを指します。正しい答えにたどり着くことが重要ではなく、学習者が自ら課題を見つけ、その課題の解決に向け能動的・自発的に学習し、さまざまな知識を得ていく過程（プロセス）を重視しています。

協働実践型教育の大まかな流れは以下のとおりです。



1. テーマを決める（課題の発見・設定）
2. どうしたら解決できるのか実践的・論理的手法によって考える（仮説を立てる）
3. 相互に話し合い、何を調べるのか明確にする（仮説の検討）
4. 自主的に学習する（仮説の検討）
5. 新たに獲得した知識を問題に適用する（実践・仮説の検証）
6. 学習したことを要約する（振り返り・共有）

このプログラムでは、アフリカの食・農・環境・栄養などの現状を理解することから始まり、ワークショップを通して自身の課題の設定、解決策の検討などに取り組みます。また、実際のフィールドで、設定した課題に触れ、協働のあり方を模索すること、そして帰国後に世界学生サミットで発表を行うという一連の流れを通して、机上の学習のみでは学ぶことのできない課題解決力、コミュニケーション力、リーダーシップを身に付けます。

Partner Universities 派遣先大学の紹介



ソコイネ農業大学

Sokoine University of Agriculture (SUA)



[キャンパス] モロゴロほか（タンザニア）
[創立年] 1984年
[WEB] <https://www.sua.ac.tz/>

[学部研究科]

6学部 20 学科と6つの研究所があり、大学院では農業・農業経済・アグリビジネス・食品科学・栄養学・森林学・自然資源と持続的農業マネジメント・獣医学・予防獣医学・農村開発の分野での修士課程と博士課程を設置している。

[学べる事]

6学部（農学、社会・人文科学、教育学、獣医学、農業経済・ビジネス、森林・野生生物・観光）の中から、興味のあるプログラムを留学先として選択することが可能です。

<https://www.sua.ac.tz/study/programmes>



ジョモケニヤッタ農工大学

Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology (JKUAT)



[キャンパス] ナイロビほか（ケニア）
[創立年] 1981年
[WEB] <http://www.jkuat.ac.ke/>

[学部研究科]

5つの学部（健康科学、工学、純正・応用科学、農学・自然資源、人材・開発）により構成され、大学院では修士40以上（農業加工工学、都市計画、バイオテクノロジー、食品学、栄養学など）、博士20以上（有機化学、造園、バイオテクノロジー、食品科学、環境工学など）のコースを有する。

[学べる事]

農業・自然資源学部 (College of Agriculture and Natural Resources/COANRE) の各学科（農業・環境科学科、食品・栄養科学科、資源資源・動物科学科）を長期留学先として選ぶことが可能です。

<http://jkuat.ac.ke/colleges/coanre/>

Counseling 留学カウンセリング

専門のコーディネーターが、留学に向けた事前準備、応募に必要な要件、応募スケジュール、留学先での学修や生活について、留学後のキャリアについてなど、様々なお悩みにお答えします。対面、オンラインのどちらでも対応可能です。お気軽にご相談ください。じっくりと相談したい時は、事前予約をお願いします。予約可能な時間は、平日の9:30～17:00です。

カウンセリング場所

グローバル連携センター（世田谷キャンパス農大アカデミアセンター2階）、またはオンライン

予約方法

予約を希望する方は、グローバル連携センター公式LINEアカウントのチャット、公式Twitterアカウントのメッセージ、E-mail (tenkai@nodai.ac.jp) からお申し込みください。



グローバル連携センター
公式 LINE



グローバル連携センター
公式 Twitter



tenkai@nodai.ac.jp